

京都府教育委員会 学校教育課 総括指導主事 平山 孝次 様から、MEXCBTを活用した「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」についてお話を伺いました。  
 京都府では令和5年5～6月に、府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年から中学校第3学年までを対象に、教科に関する調査と質問調査を実施され、より効果的に児童生徒の学習状況等の把握をされたいと考えておられます。


<b>調査の概要</b>	「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」を以下のとおり実施した。
	1 調査名称 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
	2 調査対象 府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年から中学校第3学年まで
	3 実施内容 教科に関する調査 小学校第4学年から小学校第6学年：国語、算数 中学校第1学年：国語、数学（算数） 中学校第2、第3学年：国語、数学、英語 児童生徒質問調査 生活状況、非認知能力、学習への取り組み方等に関する調査、ICT利活用に関連する調査
	4 実施時期 令和5年5月15日（月）～5月19日（金）中学校 令和5年5月22日（月）～5月26日（金）小学校 令和5年5月29日（月）～6月2日（金）予備週 ※通信負荷の分散のため、各学校、学年ごとに分散して実施。
	5 問題 京都府教育委員会が準備した調査問題を、京都府の調査受託業者がMEXCBTへ搭載 6 調査の特徴 (1) 項目反応理論 (IRT) ※1を用いた、教科に関する調査 (2) 非認知能力や学習への取り組み方の変容を測る質問調査

<b>MEXCBTを活用した理由</b>	CBT※2による調査を今後も継続実施するにあたり、以下の点を考慮してMEXCBTを活用した。 ・安定した動作環境 ・ベンダーロックインを防ぐことができるよう国のシステムを利用 ・QTI準拠であり、調査問題の利活用が容易
----------------------	--

<b>調査の様子</b>	・事前に通信環境調査及び全府試行を実施していたこともあり、大きなトラブルなく実施することができた。 ・自動採点機能により、選択型問題の結果を即時フィードバックできるため、他者との比較ではなく、自己の振り返りにつながる姿を見取ることができた。
--------------	---

<b>今後の活用</b>	・令和6年度以降も、MEXCBTを用いて学力調査を実施予定。
--------------	--------------------------------

POINT



MEXCBTと接続する際、1問目の前に上図のような待機画面を設けることで、通信負荷の集中を防ぐとともに、教科によって待機画面の色を変え、誤った教科を受検することを防いだ。

京都府教育委員会学校教育課  
 HPのURL  
[京都府教育委員会学校教育課 \(kyoto-be.ne.jp\)](http://kyoto-be.ne.jp)

※1 異なる調査の結果を直接比較可能にする分析方法です。児童生徒一人一人に番号を付与し、年度が変わっても同じ番号で受検することで、前年度の自身の結果との比較を可能にし、学力の変化を測ります。

※2 CBT = Computer Based Testing とは、コンピュータを使用した調査のことです。